

「世界における日本の使命を考える委員会」の提言 【目次】

【前書き】	(p. i - vi)
【エグゼクティブ・サマリー】	(p. 1 - 2)
【はじめに】	(p. 3 - 4)

【Part I】 背景と土台 (p. 5)

<u>I. 共進化（相互進化）</u>	(p. 5 - 11)
1. グローバリゼーションの不可逆性	
2. 最先端科学：対話の共通言語	
3. 宗教・思想	
－ 共進化：生物学の定義	(p. 8)
4. なぜ日本が共進化を唱えるのか	
<u>II. ソフトパワー</u>	(p. 12 - 21)
1. 国際社会におけるパワーの変動	
2. ソフトパワー	
3. 日本の“ソフトパワー”	

【Part II】 具体的な貢献 (p. 22)

<u>III. 世界、東アジア、そして日本の現状</u>	(p. 23 - 31)
1. 現在の国際社会	
2. 東アジアの現状	
3. 日本の現状と課題	
<u>IV. 東アジアにおける平和の創出（東アジア共同体に向けて）</u>	(p. 32 - 40)
1. 東アジアと日本	
2. 東アジア連携に向けて	
3. 日本の貢献	
<u>V. 世界の繁栄の創出</u>	(p. 41 - 48)
1. “国づくり、人づくり”	
2. 日本の国際交流	
3. 人づくりを通じた日本の貢献	

VI. 使命を果たす上での日本の課題と対応 (p. 49 - 58)

IX. まとめ（メッセージ） (p. 59 - 61)

【参考資料】

- | | |
|---------------------------|-----------|
| ① “世界が考える日本の魅力” アンケート調査結果 | ③ 委員会活動履歴 |
| ② 企業・企業人と関連のある国際貢献活動の事例 | |

世界における日本の使命を考える委員会 提言書

(エグゼクティブ・サマリー)

この度、経済同友会「世界における日本の使命を考える委員会」は、10年後を視野に入れた将来ビジョンを念頭に、世界における日本の位置づけと関わり方を約2年間かけて検討し、世界において果たすべき日本の使命について提言書を取り纏めた。本委員会では、世界への依存度が高い日本にとり、世界の平和と繁栄は日本の平和と繁栄に直結していると捉え、
(1) 日本は日本人の価値観の底流にある共進化(相互進化)の理念を、相手と同じ目線で接する日本的なソフトパワーを通じて民間主導で広め、その実現に向けて(2)日本は東アジアの連携に主体的に取り組むことで世界の秩序の創出に貢献し、“国づくり、人づくり”を柱に、世界の繁栄の創出に貢献することを提言する。また、本委員会では委員が国際貢献活動に自ら参加・支援することで理念の実現に直接寄与すると共に、国民の意識を喚起したい。

1. 日本型ソフトパワーを通じて伝える共進化の理念

1) 共進化: co-evolution (相互進化)

グローバリゼーションに因る様々な対立の解決には対話が必要であり、対話には相互に認める共通の言語が必要であるが、科学は世界の人々が理解する共通の言語である。遺伝子工学や量子物理学など科学の最先端では、世界の中の全ての物は夫々が個としてアイデンティティーを持ちながらも、相互に密接に関わっており、相互に進化しつつ、全体として機能している、という考えに行き着いている。さらに、人間の形成する社会が相互に交流し、切磋琢磨することで、互いに進化し合う共進化(相互進化:co-evolution)が21世紀の平和と繁栄の創出には不可欠となっている。日本には伝統的に全体としての繁栄を尊ぶ共生と和の心が根付いており、更に唯一の被爆国として、世界に対して平和の重要性を訴える義務があり、使命がある。

2) 日本のソフトパワー (“愛笑優楽美人和徳” = I show you luck and bijin wa toku)

現在、世界では相手に無理やり強制するハードパワーだけでは解決できない環境などの課題が増え、対峙するソフトパワーという概念が脚光を浴びている。このソフトパワーは、他者が憧れ、共感できる思想やモノをその力の源泉とし、様々なレベルでの人と人との交流とその積み重ねを通じて人々に影響を与える。その中で、日本は歴史的に様々な形でソフトパワーを保有してきたが、その特徴として、人々の衣食住という日常を介して伝えることによる親しみやすさと、相手と同じ目線から歩み寄り姿勢があげられる。その根底に共生の思想が流れる東洋思想がある。そして、バブル崩壊後に芽生えたポップカルチャー(アニメなど)などが世界の若者を惹きつけ、日本の文化が幅広く評価されて、日本がクール(格好よい)という潮流が生まれ、今世紀ハードパワーでは得られなかった高い評価を現在日本はソフトパワーによって得ている。

2. 東アジア共同体の構築、そして人づくりが導く世界の平和と繁栄

1) 東アジア共同体の構築に向けて

東アジアでは北朝鮮の核問題や中国の台頭に伴う摩擦などが課題となっている。地域秩序の構築には、経済に限らず、政治や文化など様々なレベルでの交流を通じて理解を深め、地域の連携を更に促進する必要がある。又、欧州と違い、アジアは成長段階の異なる国々から構成されており、夫々が独自に発展している。よって、自国とは異なる相手国の立場を理解する事が肝要であり、そのためには対話が一層重要である。その中で、日本は、世界第2の経済大国、そして先端課題に取り組む先進国として、東アジア共通通貨の創設を推進するなど東アジアの連携に主体的に取り組む、東アジアを基盤に世界の平和と繁栄に貢献する立場にある。

2) 国づくり、人づくり

真の平和の実現には、繁栄が必要であり、その点で日本は、戦後の経済復興を果たした過程で取得した様々なノウハウや経験を持っている。また、世界の国が将来直面する少子高齢化や環境の課題に日本は既に取り組んでいる。その過去のノウハウ、そして未来のソリューションをODAなど様々な手法で提供することにより、日本は世界の国々の繁栄に貢献できる。又、日本の貢献が知財であり、人を介して活かされる事から、日本はソフトパワーを通じて、国づくりの基盤となる人づくりを柱に、世界に対して貢献していくべきである。

3. 理念の実現に向けて

1) 日本の国際化

日本は多様性を持つ社会に変化しようとする中で、未だに内と外を分ける閉鎖性が社会全般に根強く残っている。また、日本のソフトパワーは、日本に対する理解を深め、親近感を信用や信頼に変えていく過程に課題を残している。そして、世界に対する貢献も、日本人自身がまず意識を変えなければ実現は難しい。その克服には、国際社会で通用する人材の育成に戦略的に取り組むのと同時に、留学生を初めとする外国人を積極的に取り込み、日本の理解者として活かすべく、「内なるグローバル化」を加速することが何よりも必要である。

2) 自ら行動する (アクションプラン)

個人が志をもって行動することは、目的の実現に直接働きかけるだけでなく、周囲の人の意識を喚起し、場合によっては取り込むことにもつながり、間接的にもインパクトが大きい。よって、本委員会としては、経済同友会の交流を中心としたこれ迄の国際貢献・支援活動の分野や対象を以下の様な形で更に拡張、強化し、「国際交流・支援・研究センター」(仮称)を設立するなどして会員自らが活動に直接参加、もしくは支援できるよう、積極的に働きかけていきたい。